



JST だより #016

B
ayon

英語教師不在のバイオン高校。英語学習はどうしている？

2024 年度のバイオン高校/附属中学校の生徒数は 1086 人、教育省(正式名称は「教育・青年・スポーツ省」)から派遣された正規教員数 17 人で、相変わらず教員不足が続いていますが、特に英語教師不足が最も深刻です。

それまで在籍していた唯一の英語教師・ソリヤ先生が、優秀な教師として国の英語教師育成研修員に選ばれ、2023 年 10 月からプノンペンに派遣された後、バイオン高校/附属中学校では、教育省からの英語教師の派遣がないまま、2024 年度の授業カリキュラムは終わってしまいました。

正規の英語教師が 1 人もいなかったこの 1 年、バイオン高校/附属中学校の生徒たちは英語を学習することができたのでしょうか？学校として、英語の授業にはどのように対応していたのでしょうか？

今回は、英語教師がいないバイオン高校/附属中学校の、英語学習の実態を調査してみました。

まずは校長先生に、英語学習の現状についてお聞きしてみました。



ルー校長

2024 年度の英語授業

2024 年度は、バイオン高校/附属中学校には教育省から英語教師が一人も派遣されませんでした。そこで、近隣の村の子供たちに英語を教えている欧米系 NGO に、英語教師の派遣依頼をしました。その結果、金曜日と土曜日の午前中のみ、2 人の教師が来てもらえることになりました。授業対象学年は 10 年生～12 年生(高校 1 年生～3 年生)としました。

9 年生(中学 3 年生)の英語の授業は、バイオン高校の化学の先生に担当してもらいました。

7 年生、8 年生(中学 1 年生、2 年生)は、e-school によるオンライン授業を視聴してもらうしかありませんでした。

その他、放課後や土日に、英語ができる生徒ができない生徒に英語を教える時間を設けたり、英語に興味がある生徒が自主的に英語力を磨けるよう、「英語クラブ」をつくって活動の場を設けたりしました。

生徒同士で英語力を高めよう！ “英語クラブ” 結成！！

2022 年、バイオン高校/附属中学校では、英語ができる/興味がある生徒による“英語クラブ”が結成されました。活動頻度は週 2～3 回で、以下のような活動を行っています。

- 1) STEM 教育(下記コラム参照)に則った探求学習の結果を英語でまとめ、英語で発表できるようにする。
- 2) バイオン高校/附属中学校で行われる日本の学生との英語交流会に参加する。
- 3) 生徒同士で英語を教え合い、英語力を高める努力をする。

発足当時の指導教員は英語教師のソリヤ先生でしたが、2023 年 10 月に 2 年間のプノンペン研修でシムリアップを離れたため、現在は化学のサム・アン先生が担当しています。

◆STEM 教育とは◆

STEM 教育(ステムきょういく)とは、“science, technology, engineering and mathematics” すなわち科学・技術・工学・数学の教育分野を総称する語で、2000 年代に米国で始まった教育モデルである。高等教育から初等教育・義務教育までの広い段階に関して議論される。化学技術開発の競争力向上という観点から教育政策や学校カリキュラムを論じるときに言及されることが多い。(Wikipedia より)

英語での研究発表 @バイオン高校文化祭 →



“英語クラブ”とは？ メンバー5人にインタビュー！！

英語クラブとは？

英語クラブメンバー5人にインタビューしてみました。

写真向かって左から、

- ① バツ・ソクン(10年生) コックベイン村在住
- ② クー・リダー(10年生) コックタナオ村在住
- ③ クーン・カニター(10年生) アンコールクラウ村在住
- ④ クーン・カニカー(10年生) アンコールクラウ村在住
- ⑤ ハイ・サンバ(10年生) アンコールクラウ村在住
(③と④の生徒は双子です！)



Q. 英語クラブができたのはいつですか？

A. 私たちが8年生のとき(2年前)、英語がある程度できる生徒が先生から指名され、その生徒中心に活動が始まりました。

Q. 現在、学年ごとに何人くらい在籍していますか？

()内は男子生徒数

A. 12年生:0人、11年生:7人(1人)、10年生:8人(1人)、9年生:7人(3人)、8年生:8人、7年生:0人

Q. いつ活動をしていますか？

A. 月曜日と金曜日です。

Q. どのような活動をしているのですか？

A. 最初に、TDSOという組織に推奨されたSTEM教育の6か月間の研修を受けました。その後も英語での発表の練習を続けています。

バイオン高校の文化祭では、研究成果をまとめ、英語で発表しました。

Q. バイオン高校では誰か指導教員がいますか？

A. 最初は英語のソリヤ先生のみ、今はソリヤ先生と化学のアン先生です。ソリヤ先生は現在プノンペンにいらっしやるので、Telegramで指導してくださっています。

個人的な質問も投げかけてみました。

Q. 英語クラブに入ってよかったことはありますか？

- ① 人前で話せるようになったこと。
- ② 英語が上達したこと。
- ③ いろいろな経験ができること。発表もうまくなった。
- ④ 日本の学生との交流で、様々な知識が身についたこと。
- ⑤ 英語が上達し、発表もうまくなってきたこと。

Q. 将来、何になりたい？

- ① 大学に進学して国際弁護士を目指したい(が、家は母一人で経済的余裕がないので難しいと思う)。
- ② 大学に進学して、小規模事業を興したい。
- ③ 画家か英語の先生になりたい。
- ④ 大学に進学して教師になると同時に、小規模事業もやってみたい。
- ⑤ 大学に進学して医者になりたい。

Q. ご両親の職業は？

- ① 父親は他界し、母親のみ。庭で野菜栽培をしている。
- ② 父親は小学校の先生。母親はホテルの清掃係。
- ③と④ 父親はYouTuber。母親は専業主婦。
- ⑤ 父親は遺跡修復チーム(JASA)所属。母親は文化村で庭師。

Q. バイオン高校についてどう思いますか？

- ① 先生がとても熱心。もしバイオン高校がなければ、町までバイクで通わなければならない、ガソリン代がかかるが、近いので自転車で通っている。
- ② 環境がよく、落ち着いて勉強できる。
- ③ 学費はもちろん、その他の経費もかからない。先生がとてもよく指導してくださり、楽しく勉強ができています。
- ④ 皆が規律を守って学校生活を送っているのが、気持ちがいい。
- ⑤ 家に近く、よい先生、よい友達ばかり。

Q. バイオン高校の卒業生がプノンペンの大学などに進学をするのを見て、どう思いますか？

全員:先輩たちを目標に、自分も頑張りたい。



英語での研究発表 @バイオン高校文化祭

“英語クラブ”メンバー大活躍！ 日本の学生との交流会。

バイオン高校/附属中学校では、年間 20 校ほど、日本の学校(主に高校、中学校や大学も)との交流を行っています。

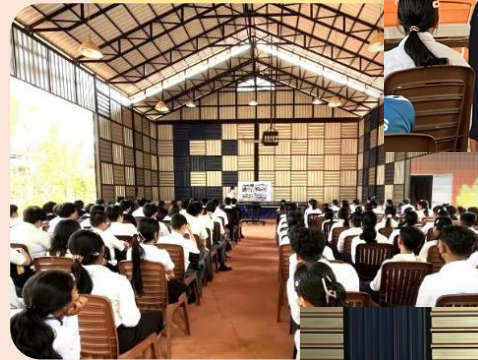
その際に活躍するのが“英語クラブ”のメンバーです！

英語での発表やディスカッション、はたまたカンボジア料理を一緒につくったり…。毎回、楽しい交流が行われていますが、同時に、英語力アップに向けてのまたとない機会ともなっています。



＜生徒代表による発表＞

- ・バイオン高校について
- ・シェムリアップについて
- ・私の 1 日の生活 etc…



＜カンボジア料理を一緒につくろう！＞

調理方法を英語で説明し、日本の学生と一緒に料理します。



＜グループトーク＞

まずは、相手に伝えたい話題について、事前に準備した資料を用いて英語で説明します。

そして、質問やディスカッションに発展させていきます。



JST では、大学進学者への奨学金制度を始めました！

バイオン高校/附属中学校のルー校長から、「バイオン高校卒業第二期生 2 人に JST から大学へ通う奨学金を毎月支給してもらえないか？」と相談を受けたのは、2023 年度の高校卒業試験の結果が出た直後の 12 月初旬でした。

一人はバンテアイミンチエイ州王立大学獣医学部に合格した女子生徒、もう一人は、バタンバン州の私立大学に合格した男子生徒。どちらも大学から学費免除の奨学金を得られているが、父親がいいため、家賃や生活費の補助がなければ他州の大学で学ぶのはかなり難しいとのこと。

JST としては、バイオン高校/附属中学校の運営を支援するだけでも財政的に厳しい状況ではあるのですが、卒業生が大学へ進学し、その後、社会で活躍すれば在校生の励みになること、そして、ルー校長から相談を受けた際にちょうどシムリアップに来訪されていた JST 支援者の方が、一人分の奨学金(4 年間)を出してくださると話が進んだことから、卒業生の大学進学奨学金制度を設けることとなりました。

奨学金対象者は、ルー校長が推薦した生徒で、

- ・家庭の経済状況
- ・在学中の活動(生徒会活動、英語クラブ、ダンスクラブなどに属して学校運営に貢献したか、など)
- ・学業成績
- ・将来への展望

の 4 点を総合的に判断して決められます。

奨学金は、JST 支援者の皆様からの寄付金と JST 会費で賄われます。この場を借りてお礼申し上げますとともに、どのような生徒が対象者となり、どのような大学生活を送っているか、簡単にご報告いたします。



<2 人へのインタビュー;2024 年 4 月のクメール正月休暇の帰省中>

◆バンテアイミンチエイ州の王立大学に進学◆

<名前>リッ・スレイラム(女)

<出身村>アンコールクラウ村プラネット地区

<家庭環境>母と妹 3 人。母親は家畜飼育。

<大学と学部>バンテアイミンチエイ王立大学獣医学部

<取得奨学金>4年間の学費免除(US\$450x4 年)。

JST 奨学金:US\$50/月

<家からの仕送り額>なし

<アルバイト>幼稚園生 6 人に英語とクメール語を教え、US\$50/月

<現在の住居>賃貸アパート(家賃 UD\$50/月)。現在はバイオン高校卒業生の先輩と家賃折半して住んでいるが、同じ長屋に新しい部屋ができれば別々に住む予定。

<支出>家賃 US\$25/月の他、光熱費約 US\$5/月、食費 US\$1.5~2/日、大学でのバイク駐車代 500 リエル/日、テキスト代は 1 冊につき US\$2~3。その他、制服代、生活消耗品、里帰り用の交通費など。

<卒業後の希望進路>獣医になって村に戻り、村人の家畜が病気になったときに役に立つ人になりたい。

◆バタンバン州の私立大学に進学◆

<名前>ピアップ・バナック(男)

<出身村>コックタナオ村

<家庭環境>母と兄姉 2 人。母親はアプサラ機構勤務

<大学>University of Management and Economics

<取得奨学金>4年間の学費免除。

JST 奨学金:US\$30/月

<家からの仕送り額>家賃 US\$50/月の他、生活費 US\$10/週。

<アルバイト>宿題が多いので今はしていないが、余裕ができれば探したい。

<現在の住居>賃貸アパート(家賃 UD\$50/月)。

<支出>家賃 US\$50/月の他、光熱費約 US\$5/月、食費 US\$1.5~2/日、テキスト代 US\$30/学期ごと。その他、生活消耗品、里帰り用の交通費など。

<卒業後の希望進路>外交官

<2024 年 9 月、バナックの家を訪ねてみると……>



←椰子の葉で作られた壁は穴が開いたまま。ブタ小屋にはブタはいませんでした。バナックの母親に尋ねると、「バナックの仕送りに充てるために、飼っていたブタはすべて売ってしまった。」とのことでした……。